

## 【研究報告】

## 産後1ヶ月の女性の助産師に対する意識

—札幌地区と北網地区との比較—

柳原真知子\* 山口さつき\* 斎藤恵梨子\*

## 【要 旨】

本研究は、産後1ヶ月の女性が、妊娠・出産・産褥を通して抱く助産師や助産師のケア、助産師外来や院内バースの認識が、地域により差が見られるかを調査し、助産師外来の普及や助産師のあり方を模索する一助とすることを目的とした。札幌地区・北網地区の病院・クリニックで産後1ヶ月健診を受診した褥婦362名を対象に自記式質問紙票を配布し、回収箱にて回収した。321名（回収率88.7%）から回答が得られ、そのうち315名（有効回答率98.1%）を解析対象とした。その結果、札幌地区において助産師への期待が北網地区より高いことが明らかになった。助産師外来の言葉や内容の理解についても札幌地区が高く、助産師外来について北網地区ではまだ浸透していないことがわかった。しかし、札幌地区でも助産師外来の内容について十分理解しているとは言い難い現状があった。妊娠から子育て期（幼児期まで）に医療サービスを受ける女性を女性消費者としたが、この女性消費者に助産師が活用されるには、日常から女性消費者に十分な情報提供と適切なケアの実践を行い、女性消費者が助産師からサポートを受けたという実感を得られることが必要な事だと示唆された。

【キーワード】 助産師、助産師外来、院内バース、女性消費者

## I. はじめに

北海道の周産期医療は、産婦人科医師不足を背景に、北海道を6ブロックに分かれ、各ブロックごとに総合周産期医療センターを設置し、医師の集約化がなされてきた。この結果、産婦人科医師が存在しなくなる地域も生じ、女性消費者や家族に安心を提供したとは言い難い状況となっている。北海道は政策として、助産師外来設置を謳い、助産師外来を推奨し産科医療の充実化を試みてきた。確かに、ここ数年で北海道の助産師外来の開設数は倍増している。この背景には、2007年の厚生労働省による「院内助産所・助産師外来施設整備事業」<sup>1)</sup>の実施が大きく影響しているだろう。

助産師外来の開設は、助産師の立場からも賞賛すべきことではあるが、医療サイドと行政サイドの双方からのみ押し進められている観がある。

女性消費者の助産師外来の知名度は、2010年の岡部ら<sup>2)</sup>の報告では38%であり、女性消費者に十分

浸透してはいない。医療サイドと女性消費者サイドとの温度差の中で、サービスを受ける女性消費者は、助産師外来をどのように受けとめ、考えているだろうか。産婦人科医師主導の周産期医療の中で、いまだ助産師と看護師の区別がつかない女性消費者たちは、助産師の本来の役割を認識しているだろうか。周産期における助産師本来の役割とは、妊産褥婦・新生児に専門職として必要なケアを提供するものとなっている<sup>3)</sup>。助産師外来は助産師の専門性を発揮できる場であり、妊婦からの満足も高く<sup>4)</sup>、不安も減少する<sup>5)</sup>と指摘されている。助産師は、助産師外来でケアの提供を通して女性消費者との信頼関係を形成し、ニーズに的確に応えていくことが重要だろう。

しかし、地方によっては助産師外来を開設しても、受診率が高まらないという臨床からの声を聞くことがある。

そこで本研究では、都市と地方との比較を通して女性消費者が助産師や助産師外来をどのように考え

\*日本赤十字北海道看護大学 母性看護学・助産学領域

ているかを調査し、助産師外来が普及していくためには、どのような方策が必要かを把握するための一助とすることを目的とした。

## II. 用語の定義

**女性消費者**：サービスの受給者として、産科医療のサービスを受ける妊産褥婦を総称して女性消費者とした。

**助産師外来**：助産師が責任をもち、産科医師から自律して外来を運営するシステム

**院内バース**：院内助産とも言うが、病院内で分娩を助産師が責任を持ち、産科医から自律し、ローリスクの産婦を対象に分娩室を運営するシステム

## III. 研究方法

### 1. 調査対象・調査方法

年間分娩件数 400 件以上ある施設で、札幌地区 2 施設・北網地区 2 施設で調査に協力が得られた病院及びクリニックとした。両地域共に 1 施設は助産師外来をおこなっている病院・クリニックを含んでいる。

対象は産後 1 ヶ月の健康診査で来院した母親 362 名。

調査方法は、無記名自記式の質問調査をおこなった。配布・回収については、調査票は、施設の看護部門の責任者に郵送又は手渡し、配布を依頼し、回収は回収箱への投函を依頼した。

### 2. 調査期間

平成 21 年 11 月～平成 22 年 2 月

### 3. 調査内容

#### 1) 属性

年齢、子どもの数、分娩方法、子どもの栄養方法

#### 2) 情報収集方法

新聞を読む、マタニティ雑誌を読む、テレビのニュースを見る、インターネットにて妊娠・出産・子育てに関する情報を得る、友人・知人と妊娠・出産・子育ての情報交換をするかの質問に対して、「全くない」「ほとんどない」「少しある」「よくある」の 4 段階の回答とした。

#### 3) 助産師に対する認識

助産師と看護師の区別がつくか、妊娠中・出産中・産後入院中・退院後、助産師からサポートを受けたか、助産師外来という言葉を知っているか、助産師外来の内容を知っているか、院内バースの言葉を知っているか、院内バースの内容を知っているか、助産師外来があったら利用するか、院内バースがあったら利用するかについて、「はい」「いいえ」「わからない」の 3 つから 1 つを選択することとした。

#### 4) 助産師に対する役割の期待

妊婦健診は助産師がよい、分娩介助は助産師がよい、産褥のケアは助産師がよい、保健指導は助産師がよい、助産師はよく相談にのってくれる、助産師は頼りになる、子育て中、助産師に相談できたらよい、出産により助産師のイメージはよくなった、次回出産は助産師にまかせたいかの質問に対し、「思う」「どちらとも言えない」「思わない」の 3 段階の回答とした。

### 4. 分析方法

対象の属性については、記述統計を用いた。情報収集方法、助産師に対する認識、助産師に対する役割の期待については、札幌地区と北網地区の 2 地区に分けて、 $\chi^2$  検定を行った。

分析には、統計パッケージ SPSS for Windows Version 12.0 J を用い、有意水準を 5% とした。

### 5. 倫理的配慮

調査にあたり、各施設における院長・看護部長の承諾を得た。対象者のプライバシーに配慮し、調査票は無記名とし、回答内容が調査者以外に漏出しないように個別の回収用封筒を渡した。依頼文書に調査の目的、意義および方法、記入に要するおよその時間を明記した。データは、統計的に処理し、本研究以外に使用しないことを保証した。また、研究への参加の意思は自由であり、参加の有無や回答内容より不利益は生じない旨を伝えた。アンケートの記入を持って同意を得たとした。

なお、本研究は日本赤十字北海道看護大学研究倫理委員会の承認を受けた。

## IV. 結果

調査用紙は 362 名に配布し、321 名から回答が得られ（回収率 88.7%）、有効回答数は 315 名（有効

回答率 98.1%) であった。

### 1. 対象者の属性

属性を表 1 に示したが、平均年齢は、30.8 歳 (SD 4.5) であった。初産婦の別では、やや経産婦が多かった。

分娩方法については、自然分娩が 251 名 (79.7%) で約 8 割を占め、帝王切開は 45 名 (14.3%) で 1 割強であった。

子どもの栄養方法は、母乳 217 名 (68.9%)、混合 82 名 (26.0%)、人工乳 3 名 (1.0%) で、約 7 割近くが母乳栄養であった。

表 1 対象者の属性 (N= 315)

項目	属性	人数	割合 (%)
平均年齢 (SD)	30.8 歳 (SD 4.5)		
	妊娠歴	初産婦	136 名 (43.2%)
	経産婦	178 名 (56.5%)	
	無回答	1 名 (0.3%)	
分娩方法	自然分娩	251 名 (79.7%)	
	吸引分娩	7 名 (2.2%)	
	帝王切開	45 名 (14.3%)	
	その他	1 名 (0.3%)	
	無回答	11 名 (3.5%)	
子どもの栄養	母乳	217 名 (68.9%)	
	混合	82 名 (26.0%)	
	人工乳	3 名 (1.0%)	
	その他	3 名 (1.0%)	
	無回答	10 名 (3.1%)	

### 2. 情報収集方法

情報収集の方法は、表 2 に示したが、札幌と北網地区の 2 区に分けて X<sup>2</sup> 検定を行ったが、意差は見られなかった。

### 3. 助産師に対する認識

助産師の認識については表 3 に示したが、「助産師と看護師の区別がつかか」に対し、札幌地区と北網地区に差は見られなかった。助産師と看護師の区別がつかくのは両地区で 6 割前後であった。

「妊娠中、助産師からサポートを受けたか」に対し、札幌地区は、「はい」は 150 名 (90.9%)、「いいえ」は 10 名 (6.1%)、「わからない」は 5 名 (3.0%) であった。北網地区は、「はい」は 97 名 (64.7%)、「いいえ」は 34 名 (22.7%)、「わからない」は 19 名 (12.7%) であった。札幌地区が北網地区より妊娠中、助産師よりサポートを受けたと思う女性消費者が多かった (p = .000)。

「出産中、助産師からサポートを受けたか」の質問に対し、札幌地区は、「はい」は 160 名 (97.0%)、「いいえ」は 4 名 (2.4%)、「わからない」は 1 名 (0.6%) であった。北網地区は、「はい」は 130 名

表 2 情報収集方法 (N= 315)

項目	地区	全くない	ほとんどない	少しあり	良くある	検定
新聞	北網	23 (15.3)	40 (26.7)	46 (30.7)	41 (27.3)	n s
	札幌	16 (9.7)	48 (29.1)	47 (28.5)	54 (32.7)	
雑誌	北網	10 (6.7)	34 (22.8)	59 (39.6)	46 (30.9)	n s
	札幌	14 (8.5)	48 (29.1)	72 (43.6)	31 (18.8)	
TV	北網	1 (0.7)	8 (5.3)	40 (26.7)	101 (67.3)	n s
	札幌	1 (0.6)	6 (3.6)	54 (32.7)	104 (63.1)	
Net	北網	3 (8.7)	22 (14.7)	58 (38.6)	57 (38.0)	n s
	札幌	11 (6.7)	23 (14.1)	64 (39.0)	66 (40.2)	
情報交換	北網	2 (1.4)	8 (5.4)	47 (31.5)	92 (61.7)	n s
	札幌	0	14 (8.5)	55 (33.3)	96 (58.2)	

人数 (%)  
ns : not significant  
無回答を除いているため、合計人数とは一致しない

(86.6%)、

「いいえ」は 10 名 (6.7%)、「わからない」は 10 名 (6.7%) であった。札幌地区が北網地区より出産中、助産師よりサポートを受けたと思う女性消費者が多かった (p = .002)。

「産後入院中、助産師からサポートを受けたか」の質問に対し、札幌地区は、「はい」は 165 名全員であった。北網地区は、「はい」は 135 名 (90.0%)、「いいえ」は 6 名 (4.0%)、「わからない」は 9 名 (6.0%) であった。札幌地区が北網地区より産後入院中、助産師よりサポートを受けたと思う女性消費者が多かった (p = .000)。

「退院後、助産師からサポートを受けたか」の質問に対し、札幌地区は、「はい」は 130 名 (78.8%)、「いいえ」は 25 名 (15.2%)、「わからない」は 6 名 (3.6%)、無回答 4 名 (2.4%) であった。北網地区は、「はい」は 72 名 (48.0%)、「いいえ」は 64 名 (42.7%)、「わからない」は 13 名 (8.7%)、無回答 1 名 (0.7%) であった。札幌地区が北網地区より退院後、助産師よりサポートを受けたと思う女性消費者が多かった (p = .000)。

「助産師外来という言葉を知っているか」の質問に対し、札幌地区は、「はい」は 119 名 (72.1%)、「いいえ」は 46 名 (27.9%) であった。北網地区は、「はい」は 47 名 (31.3%)、「いいえ」は 102 名 (68.0%)、無回答 1 名 (0.7%) であった。札幌地区が北網地区より助産師外来という言葉を知っていた女性消費者が多かった (p = .000)。

「助産師外来の内容を知っているか」の質問に対し、札幌地区は、「はい」は 94 名 (57.0%)、「いいえ」は 71 名 (43.0%) であった。北網地区は、「はい」は 27 名 (18.0%)、「いいえ」は 123 名 (82.0%) であった。札幌地区が北網地区より助産師外来の内容を知っていると答えた女性消費者が多かった (p

= .000)。

「院内バースという言葉を知っているか」「院内バースの内容を知っているか」の質問に対し、札幌地区と北網地区との間に、差は見られなかった。

「助産師外来があったら利用するか」の質問に対し、札幌地区は、「はい」は108名(65.5%)、「いいえ」は3名(1.8%)、「わからない」は53名(32.1%)、無回答1名(0.6%)であった。北網地区は、「はい」は56名(37.3%)、「いいえ」は10名(6.7%)、「わからない」は84名(56.0%)であった。札幌地区が北網地区より助産師外来を利用したいと希望している女性消費者が多かった ( $p = .000$ )。

「院内バースがあったら利用するか」の質問に対し、札幌地区と北網地区との間に差は見られなかった。

#### 4. 助産師に対する役割の期待

表4に示したが、「妊婦健診は助産師がよい」の質問に対し、札幌地区は、「思う」は71名(43.0%)、「どちらとも言えない」は76名(46.1%)、「思わない」は17名(10.3%)であった。北網地区は、「思う」は67名(44.7%)、「どちらとも言えない」は77名(51.3%)、「思わない」は5名(3.3%)、無回答1名(0.7%)であった。北網地区が札幌地区より妊婦健診は助産師がよいと希望している女性消費者が多かった ( $p = .042$ )。

「分娩介助は助産師がよい」、「産褥のケアは助産師がよい」、「保健指導は助産師がよい」の質問に対し、札幌地区と北網地区との間に、差は見られなかった。

「助産師はよく相談ののってくれる」の質問に対し、札幌地区は、「思う」は155名(93.9%)、「どちらとも言えない」は9名(5.5%)、「思わない」は0名、無回答1名(0.6%)であった。北網地区は、「思う」は121名(80.7%)、「どちらとも言えない」は28名(18.7%)、「思わない」は1名(0.7%)であった。札幌地区が北網地区より助産師はよく相談ののってくれると思っている女性消費者が多かった ( $p = .001$ )。

「助産師は頼りになる」の質問に対し、札幌地区は、「思う」は155名(93.9%)、「どちらとも言えない」は9名(5.5%)、「思わない」は1名(0.6%)であった。北網地区は、「思う」は126名(84.0%)、「どちらとも言えない」は20名(13.3%)、「思わない

表3 助産師に関する認識 (N= 315)

項目	はい	いいえ	わからない	検定
助産師と看護師の区別	札幌 99 (60.0) 北網 88 (58.7)	66 (40.0) 62 (41.3)		
妊娠中、助産師からサポートを受けた	札幌 150 (90.9) 北網 97 (64.7)	10 (6.1) 34 (22.7)	5 (3.0) 19 (12.7)	**
出産中、助産師からサポートを受けた	札幌 160 (97.0) 北網 130 (86.6)	4 (2.4) 10 (6.7)	1 (0.6) 10 (6.7)	**
入院中、助産師からサポートを受けた	札幌 165 (100) 北網 135 (90.0)	0 6 (4.0)	9 (6.0)	**
退院後、助産師からサポートを受けた	札幌 130 (78.8) 北網 72 (48.0)	25 (15.2) 64 (42.7)	6 (3.6) 13 (8.7)	**
助産師外来という言葉の認知度	札幌 119 (72.1) 北網 47 (31.3)	46 (27.9) 102 (68.0)		**
助産師外来の内容の認知度	札幌 94 (57.0) 北網 27 (18.0)	71 (43.0) 123 (82.0)		**
院内バースという言葉の認知度	札幌 24 (14.5) 北網 12 (8.0)	141 (85.5) 138 (92.0)		
院内バースの内容の認知度	札幌 20 (12.1) 北網 8 (5.3)	144 (87.3) 142 (94.7)		
助産師外来の利用の希望	札幌 108 (65.5) 北網 56 (37.3)	3 (1.8) 10 (6.7)	53 (32.1) 84 (56.0)	**
院内バースの利用の希望	札幌 36 (21.8) 北網 29 (19.3)	2 (1.2) 9 (6.0)	124 (75.2) 112 (74.7)	

人数 (%)

\*\*は  $P < 0.01$

無回答を除いているため、合計人数とは一致しない

い」は3名(2.0%)、無回答1名(0.7%)であった。札幌地区が北網地区より助産師は頼りになると思っている女性消費者が多かった ( $p = .023$ )。

「子育て中、助産師に相談できたらよい」の質問に対し、札幌地区は、「思う」は158名(95.8%)、「どちらとも言えない」は4名(2.4%)、「思わない」は2名(1.2%)、無回答1名(0.6%)であった。北網地区は、「思う」は130名(86.7%)、「どちらとも言えない」は14名(9.3%)、「思わない」は3名(2.0%)、無回答3名(2.0%)であった。札幌地区が北網地区より子育て中、助産師に相談したいと思っている女性消費者が多かった ( $p = .019$ )。

「出産により助産師のイメージはよくなった」の質問に対し、札幌地区は、「思う」は149名(90.3%)、「どちらとも言えない」は13名(7.9%)、「思わない」は3名(1.8%)であった。北網地区は、「思う」は119名(79.3%)、「どちらとも言えない」は26名(17.3%)、「思わない」は2名(1.3%)、無回答3名(2.0%)であった。札幌地区が北網地区より出産により助産師のイメージがよくなったと思っている女性消費者が多かった ( $p = .031$ )。

「次回の出産は助産師にまかせたい」の質問に対し、札幌地区は、「思う」は106名(64.2%)、「どちらとも言えない」は52名(31.5%)、「思わない」は7名(4.2%)であった。北網地区は、「思う」は68名(45.3%)、「どちらとも言えない」は74名(29.3%)、「思わない」は6名(4.0%)、無回答2

名 (1.3%) であった。札幌地区に、次回出産を助産師にまかせたいと思う女性消費者が多かった ( $p=0.003$ )。

表 4 助産師に対する役割の期待 (N= 315)

質問内容	地区	思う	どちらとも言えない	思わない	検定
妊婦健診は助産師がよい	札幌	71 (43.0)	76 (46.1)	17 (10.3)	*
	北網	67 (44.7)	77 (51.3)	5 (3.3)	
分娩介助は助産師がよい	札幌	126 (76.4)	35 (21.2)	3 (1.8)	
	北網	105 (70.0)	39 (26.0)	4 (2.7)	
産褥のケアは助産師がよい	札幌	129 (78.2)	32 (19.4)	3 (1.8)	
	北網	100 (66.7)	45 (30.0)	5 (3.3)	
保健指導は助産師がよい	札幌	123 (74.5)	36 (21.8)	4 (2.4)	
	北網	99 (66.0)	48 (32.0)	3 (2.0)	
助産師は良く相談にのってくれる	札幌	155 (93.9)	9 (5.5)	0	**
	北網	121 (80.7)	28 (18.7)	1 (0.7)	
助産師は頼りになる	札幌	155 (93.9)	9 (5.5)	1 (0.6)	*
	北網	126 (84.0)	20 (13.3)	3 (2.0)	
子育て中、助産師に相談したい	札幌	158 (95.8)	4 (2.4)	2 (1.2)	*
	北網	130 (86.7)	14 (9.3)	3 (2.0)	
出産で助産師のイメージは良くなった	札幌	149 (90.3)	13 (7.9)	3 (1.8)	*
	北網	119 (79.3)	26 (17.3)	2 (1.3)	
次回の出産は助産師に任せたい	札幌	106 (64.2)	52 (31.5)	7 (4.2)	**
	北網	68 (45.3)	74 (29.3)	6 (4.0)	
人数 (%)		*は $p (0.05)$ **は $P < 0.01$			

無回答を除いているため、合計人数とは一致しない

## V. 考 察

### 1. 情報収集の方法

助産師外来の情報を提供していくために、女性消費者はどのような方法を用いて情報収集にアクセスしているかである。

平均年齢 30.8 歳前後の初経産婦を合わせた女性消費者の情報へのアクセスは、テレビの平均得点が一番高く、次に友人・知人との情報交換であった。北網地区と札幌地区に得点差は見られず、情報アクセスについて地域差はなかった。これらのことから、女性消費者への情報提供の活用方法としては、一番アクセスが高いマスメディアとしてのテレビが有効であることがわかる。しかし、女性消費者間の「口コミ」としてのコミュニケーションネットワークも重要な鍵を握ると言える。

### 2. 助産師に対する認識

本調査の女性消費者の約 8 割が自然出産であり、

異常分娩は 2 割を切っていた。このような背景の女性消費者の助産師への認識であるが、助産師と看護師の区別ができるかについて、北網地区と札幌地区で差は見られなかった。区別を認識できる女性消費者は約 6 割前後であり、助産師と看護師の差異が、十分認識されているとは言い難い現状である。

妊娠期、出産期、産褥期の助産師のサポートについて、札幌地区に助産師からサポートを受けたと認識している女性消費者が多かった。サポートを得たとの認識は、サポートの提供がなされていたことの結果とも言える。女性消費者側からするとサポートが得られたと認識できる状況があったことになる。

退院後のサポートも同様に、札幌地区の方が高く、退院後のサポートを得られやすい環境にあったことが推察される。

助産師外来という言葉を知っている女性消費者は、札幌地区では約 7 割、北網地区では約 3 割で差が見られた。地方においては、まだ助産師外来という言葉が一般化されていない状況である。地方で、助産師外来を普及させていくためには、広報活動にも力を入れていく必要がある。

2010 年京都の病院の調査で、助産師外来という言葉を知ったことがある者は 38% であり<sup>6)</sup>、北網地区と同じ知名度であった。札幌地区の知名度の高さの背景としては、助産師外来を開設している施設が複数あることが影響している可能性がある。

また、助産師外来の内容について知っているかは、札幌地区が高かった。しかし、知っている者は約 5 割であり、助産師外来がどのような役割を果たしているかの情報を、札幌地区及び北網地区共に女性消費者に知らしめていくことが重要である。

院内バースについては、札幌地区も北網地区も差はなく、知っている者とは両地区ともに 1 割前後であった。これは、まだ北海道で院内バースを標榜している施設がないことも影響しているかもしれない。

助産師外来の利用は、札幌地区でのニーズが高かった。札幌地区では、このニーズに応えられる体制づくりが求められるだろう。北網地区では、助産師外来を行う施設の拡大と広報活動が必要である。また、女性消費者からの助産師外来開設のニーズの高まりは、病院・クリニックでの開設の後押しとなる可能性はある。

しかし、院内バースの利用については、札幌地区・北網地区共に 2 割前後で差は見られなかった。低い

ニーズではあるが、利用したいとの希望を持つ女性消費者の存在が確認できる。

院内バースのニーズが低い背景として、院内バースの言葉や内容を知らない者が多かったことから、ニーズにつながらなかったことが推察される。ニーズが高まるには、院内バースを標榜する施設が開設され、その良さが女性消費者に浸透していかなければならない。

広報の必要性について、福井は「助産外来・院内助産所開設にあたり、助産師という職業を広報することも重要である」<sup>7)</sup>と指摘している。

確かに、助産師外来・院内バースで助産師はどのような役割を果たしており、どのようなサポートを女性消費者は受けられるかを知らなければ利用率は向上しない。

### 3. 助産師に対する役割の期待

女性消費者の助産師への期待であるが、差が見られたのは妊婦健診についてで、北網地区で助産師がよいとするニーズが高かった。しかし、助産師に妊婦健診を行ってもらいたいとのニーズは、札幌地区・北網地区共に約4割程度であった。これは出産や産褥期のニーズより低い割合であった。妊婦健診へのニーズが低いのは、病院・クリニックでの妊婦健診は医師が行っており、助産師の役割と見なされていないかもしれない。このことについて、管らも、「約半数の妊婦が医師の行う妊婦健診を望んでいた」<sup>8)</sup>ということからも、妊婦健診は医師にとの思いが根強い現状である。ローリスクの妊婦の妊婦健診は、助産師の業務範囲であるが、女性消費者から十分認識されていない現状である。

札幌地区に高かった項目は、「助産師はよく相談にのってくれる」、「助産師は頼りになる」、「子育て中、助産師に相談できたらよい」、「出産により助産師のイメージはよくなった」、「次回の出産は助産師にまかせたい」の5項目であった。このことから、札幌地区の助産師が妊産褥期から子育てまで相談相手として信頼されていることが見えてくる。助産師はケアの提供という実践を通して信頼を獲得していくのである。

概観すると札幌地区の女性消費者は、助産師への信頼が厚いと見ることができる。それは、札幌地区で妊産褥期のサポートを得られたという結果が高かったことから、サポートの提供により信頼が構築されてきた結果かもしれない。

## VI. おわりに

本研究より、助産師への役割や助産師外来、院内バース（院内助産）の認知について地域格差があることが明らかになった。また、助産師への認知が十分でなく、助産師の役割について、女性消費者への広報活動が重要である。

今回調査施設数が少なく、施設の特徴が強く反映された可能性もある。また現状分析の調査であり、関連因子等の分析にはいたらず、今後、改善につながる結果を得るためには、調査施設の拡大や調査内容に改善が必要である。

## 謝 辞

本研究にご協力いただきました札幌地区・北網地区の病院・クリニックの皆様へ深く感謝いたします。

なお本研究は、当大学の2009年の奨励研究の助成を受けて実施したものです。

## VII. 引用文献

- 1) 福井トシ：助産外来・院内助産所計画・開設・運営マニュアル、MCメディカル、p9、2009
- 2) 岡部紗千、足立侑、上垣まどか他：総合周産期母子医療センターにおける助産師外来のあり方、京都母性衛生学会雑誌、第18巻、p54、2010
- 3) 社団法人日本助産師会、助産師の声明、2006
- 4) 管美和、志岐文子、江川康子、井上充：助産師外来を実施しての現状と評価、佐賀母性衛生学会雑誌、13巻1号、p40、2010
- 5) 芳賀亜紀子、徳武千足、坂口家麻美他：妊婦から見た助産師外来開設前後における妊婦健診の評価、日本看護学会論文集：地域看護40号、p44、2010
- 6) 前掲書 岡部紗千、足立侑、上垣まどか他、p54
- 7) 前掲書 福井トシ、p78
- 8) 前掲書 管美和、志岐文子、江川康子、井上充、p41